

教員の部活動指導について

教員の勤務実態が大変だということは、前述しました。それが、ニュースの話題になることもできました。その勤務実態を解消する為に、よく話を聞くのは、部活動顧問のことです。部活動を社会体育に移行していくとか、外部指導者を採用するとか・・・。

中学生にとって、学校生活の中で部活動の占める割合はかなり高いものがあると思います。「学校は勉強をする為(授業を受ける為)に行く」というのは、みんな知っていますが、実際には、「部活動がやりたいから行く」という生徒も多々います。「成績が下がると部活動をやらせてもらえないから勉強をがんばる」とか「ケガをしていますが、体育の授業を受けないと部活動ができないから、体育もがんばった」みたいな話もよく聞くことができました。それだけに、クラス替えに関係がない、3年間を通して受け持つ部活動顧問は、生徒との関係も、担任とはまた違った人間関係が作れます。

担任や学年職員が受け持ちの生徒との関係が上手くいかないときに、部活動顧問の助けを借りて修正できることもあれば(その逆の場合もありますが・・・)、生徒指導上、部活動顧問の一言が、失敗をする手前でのブレーキになることも多々あります。

そんなことを考えると、部活動を外部の人間に委託していくというのは、どうなのでしょう？すでに、中体連で、外部指導者は認められていますが、外部指導者は、教育者ではありませんから、次のようなことが考えられます。

その競技には秀でているため、「勝利至上主義」になりかねない。部活動は、学校教育の中での活動ですから、もちろん勝たせてあげたいとは思いますが、もちろん、節度というものがあります。また、勝てば何でもいい・・・のではなく、他にルールを守らせたり、マナーを教えていくことは、勝たせること以上に大切なことです。部員同士の人間関係を築いていくこともしかり。部員全員が、将来その種目のプロになるわけではないですから、そのあたりの加減ができる人でないと難しいと思います。また、その外部指導者の人間性やマナーについて、生徒の見本になるのかどうか？そんなことも問題になると思います。

仮に、その辺りを上手に解消したとしても・・・。文部科学省は、大会の引率ができる部活動支援員を採用していくという話ですが、29年度埼玉県内で12名。一体、埼玉県に中学校がいくつあって、1つの学校にいくつの運動部があるのかを考えていただきたいところです。

MCD